**平成２７年度　和賀地区中学校教育研究会　第2回研修会**

　　　　　　　「相談支援ファイル活用研修講座」

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　Ｈ２７，９，７（月）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　エリアＣＯ　伊山　勝子

１　「個別の教育支援計画」について　　資料１　　１４：００～１４：２５

２　北上市「相談支援ファイル」について　資料２　１４：２５～１５：００

　＊「相談支援ファイル」活用状況アンケート　資料３

３　「個別の指導計画」の立て方について　資料４　１５：００～１５：３０

（休憩　１５分　）

４　演習　　　　　　　　　　　　　　　　　１５：４５～１６：３０

1. 「個別の指導計画」の目標の見直し
2. 「個別の教育支援計画」の作成演習

　プロフィールの見直し

　まんなかマップ

　個別の教育支援計画の作成・見直し

資料４

　「個別の指導計画」の目標の立て方・手だての工夫

1. 「個別の指導計画」とは・・・。

・教育課程上の教科指導等（国語，算数（数学），音楽，体育，生活単元学習，作業学習等）

について，集団指導や個別の指導の中で，個に応じた指導の最適化を行うために，日々の授業の中で目標・指導内容・指導方法が計画化されている。

個別の指導計画は、児童生徒一人一人の障害の状態等に応じたきめ細かな指導が行えるよ

う、学校における教育課程や指導計画、当該児童生徒の個別の教育支援計画を踏まえて、

より具体的に児童生徒一人一人の教育的ニーズに対応して、指導目標や指導内容・方法を

盛り込んだものである。

個別の指導計画は、作成することよりも活用すること、どのように役立てるかが最も重要

である。日々の指導の実践が効果的に行われるように、指導に携わる複数の教師が情報を

共有化し、指導の一貫性や統一性を図るためのものであり、担任が替わっても継続的な指導ができるように引き継がれるものである。

1. 作成手順

実態把握 学級担任・教科担任の気付き

教育的ニーズの把握 保護者のニーズ、本人のニーズの把握

教育的ニーズの選定 学年会等で検討

・重点課題 コーディネーター、特学担任等への相談

・優先内容 校内委員会へ相談

支援シート、チェックリスト等の活用

目標の設定 校内委員会で検討

（長期・短期） 個別の指導計画の作成

全職員、保護者との共通理解

指導内容・指導方法 校内支援体制の整備

指導体制の決定

指導の実践 学級担任・教科担任による配慮・指導

指導の記録 校内支援体制による指導

指導の評価・修正 校内委員会で検討

関係機関、保護者による評価

指導目標・内容・方法等の評価・修正

個別の指導計画の評価 全職員による検討

特別支援教育の学校評価 次年度への引継事項の確認

　＊目標の立て方　・児童生徒の実態把握から目標をたてる

・目標は具体的に書く（長期は1年で、短期は学期で達成する目標）

　　　　　　　　・抽象的で曖昧に設定されている目標は、手だてが立てにくい

　　　　　　　　・複数の目標を一緒にしない

　　　　　　　　・達成されたどうかが客観的に分かるような「動詞」を使う

　　　　　　　　・目標達成の評価の基準を明確にする

　　　　　　　　・「簡単なかけ算がわかる」→「九九を使い、かけ算をすることができる」

　　　　　　　　　　「～かわる」「～を理解する」「～を知る」「～を楽しむ」・・・・×

　　　　　　　　　　「～する」「～できる」「～と言う」「～を選ぶ」「～と書く」・・・○

　　　　　　　　・教師の手だてではなく、子どもができることを目標にする

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| ポイント | △の目標 | ○の目標に |
| 子どもが主体の目標である | ○○さんに～させたい | ○○さんが～できる |
| 肯定的な目標 | ～しない | ～できる |
| 目標が一つ | 計算ができ、計算の仕方を発表することもできる | 計算できる |
| 評価可能な目標 | 作文が上手にかける | 作文に「いつ」「どこで」がかける |
| 条件がしめされている | ～できる | 具体物を用いて考えたときに～できる |
| 基準が示されている | 3年生で学習する漢字が書ける  学習時間に集中して取り組むことができる | 3年生で学習する漢字の8割をかくことができる  国語の学習時間に、１５分間集中して取り組むことができる |

|  |
| --- |
| **目標の立て方のポイント**  にする    にする  手だての例  ・タイルを使って、数えながら学習する  ・片付けの手順カードを示す  ・棚に入れ方の写真を貼っておく  ・できたらシールをはる  ・絵と文字と音を対応させながら、興味のある物の名称をつかって練習する  ・話形を教え、いつ、だれ、どこ、何をしたが言えるようにカードで示す  ・1回に一つの指示を具体的に指示する  ・作業の手順を写真や絵カードでしめす |

＊指導の手だて

・手だては、目標を達成するために教師が行う指導や支援の方法を記述する

・指導の手だての主語は教師

・従来の言語的指示の出し方「声がけする」→「短い言葉で言う」「番号をつけて指示をつたえる」

・「～させる」→「～を使って～させる」など具体的な方法を入れる

・指示する際、視覚的な指示や教材の工夫

・ツールや教材について工夫

・作業の手順を写真や絵カードでしめす

＊評価　　・具体的な指導目標、指導の手だてがあると、日々の記録をもとに客観的な評価

ができる

　　　　　・障がいの程度を評価するものではない

　　　　　・教師が目標を立てて、指導したことを評価する

　　　　　・指導目標に対応した評価をする

　　　　　・「ほぼ」「一応」「だいたい」「あまり～できなかった」という表現は避ける

　　　　　・自分の考えた目標や指導の手だてが適切であったかふり返る

＊個別の指導計画で「楽しむ」「味わう」という目標をどのように扱うか

　　　　　・評価しやすいように、「～できる」の表現で目標設定する

**「個別の教育支援計画」と合わせて「個別の指導計画」を作成することで、**

**より子ども一人一人の教育的ニーズに対応した、適切な指導及び必要な支援**

**を行うことが可能となります**